

# ばぶよち ぴょん!

～子育て支援のページ～  
Vol.8

町内には2つの町立保育園と4つの私立保育園、1つの認定こども園、2つの私立幼稚園があります。親子で楽しく遊びながら、交流や情報交換などを行う園庭開放や、未就園児向けの親子教室を実施している園もあります。お友達づくりや息抜きにご利用ください。

※詳しくは、各園に直接お問い合わせください。

保育園
ゆずの里保育園 ☎ (294) 6066
旭台保育園 ☎ (294) 0857
養光保育園 ☎ (276) 1473
あけぼの幼児園 ☎ (295) 2340
毛呂山みどり保育園 ☎ (294) 1115
ながせ保育園 ☎ (294) 2515



認定こども園・幼稚園	開催する親子教室など
ときわぎこども園(幼保連携型) ☎ (294) 4992	未就園児親子教室「トトロ広場」(無料)
毛呂山愛仕幼稚園 ☎ (294) 0977	未就園児親子クラス「うさぎ組」(体験無料)
ながせ幼稚園 ☎ (294) 2243	未就園児親子教室「リトルビーンズ」(体験無料) 園庭開放「アクティブサークル」(無料)



## 毛呂山歴史散歩

第258回

### 大正時代の養蚕と技術改良

～副業から本業へ～

毛呂山町の養蚕は、明治から大正期にかけての技術の進歩とともに、地域の大きな産業のひとつになりました。町内で養蚕を生業としたのは農家でしたが、十分な利益を得られず、赤字になることもありました。

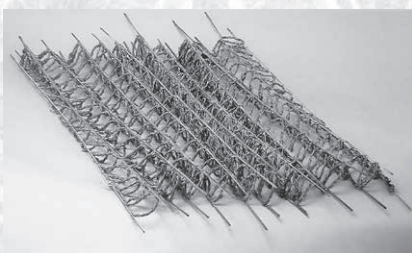
当時、町内の一般的な農家では、自給自足するために農作物を生産しており、販売して大きな収入を得る農家はごく少数でした。そのため、養蚕で収入を得る方法を探すことは、農家にとっての課題でした。

このころ、品種改良によって、良質で生産量を増やせる新たな蚕が広まっており、また外国種の導入、交雑種の交配などを行うことで新品種も誕生し、生産量も驚くほど向上しました。また、蚕の飼育に使う道具、「蚕具」

や飼育方法の改良も行われました。蚕に繭を作らせるための道具であるまぶしは、木の枝を用いたものを使用していましたが、大正時代になると藁まぶし、更にそれを改良した万年まぶしが普及しました。蚕の飼育は、重労働で手間がかかったため、飼育方法の簡便化、健全蚕種への改良など、養蚕業全体で環境改善に向けた研究が進められました。

毛呂山の各村でも同様に、新品種による飼育、養蚕技術の改良が行われ、大正15年の毛呂村における繭の生産額は、米麦の生産額の2倍まで向上しました。

こうして、毛呂山町の養蚕業は、農家の生活を担うとともに、収入の大きな柱となっていきました。



万年まぶし